

# シンポジウム報告書

## 「宝塚市の地域振興としての国際化」 ～宝塚を世界の観光文化都市にするには～



特定非営利活動法人  
宝塚サージェリーネットワーク

特定非営利活動法人  
国際交流団体未来

事業名称

シンポジウム「宝塚市の地域振興としての国際化」  
～宝塚を世界の観光文化都市にするには～

主催者

特定非営利活動法人宝塚サージェリーネットワーク  
特定非営利活動法人国際交流団体未来

後援

宝塚市・宝塚市国際観光協会  
特定非営利活動法人宝塚市国際交流協会  
認定NPO法人宝塚NPOセンター  
兵庫県阪神北県民局

日時

平成26年12月6日(土) 14時～16時半

会場

宝塚市売布 「ピピアめふ」

参加者

宝塚市民及び近郊市民 22名

事業内容

第一部基調講演

講演者：北畑隆生氏

第二部パネルディスカッション (敬称略)

コーディネーター：川寄由起美

パネリスト：

David Hepler (デイビッド ヘプラー) 米国籍 英語教師

金 采映 (キム チェヨン) 韓国籍 中医師

川崎哲雄 公募市民(公募小論文最優秀者)

宮脇 英明 特定非営利活動法人宝塚サージェリーネットワーク理事長

実施状況及び成果

宝塚市及び近郊市民22名(登壇者6人、聴講者16名)の参加を得て開催。主催団体の趣旨である宝塚を地域振興として国際化するために、どのように宝塚の地域資源を世界に情報発信していけばいいか市民から様々な意見を聞き討論した。基調講演では地域振興の要素とは何か、観光による地域活性の成功事例を踏まえ宝塚の場合の事例を拝聴できた。パネルディスカッションでは在住外国人から見た宝塚、公募市民からは歌劇の公演内容などの提案など、またNPOからは宝塚の観光による地域振興をどのように政策的に反映していけばいいか建設的な意見が出た。参加市民からは財政面からの企業誘致の推進、西谷地域の今後の観光資源のあり方、またガーデンフィールズ跡地利用について意見などが出た。今回のシンポジウムをきっかけとして、主催団体は宝塚の地域資源を世界に情報発信するための組織体設立、そして行政との連携を推進していくことを述べ閉会した。



## 第一部 基調講演 北畑隆生氏 要約

地域活性化に成功する要素には①地域資源（観光地や地産など）②それを仕掛けるリーダーの存在③地域のブランドの3つが揃って始めて成り立つ。地域資源は意外と地元の人では気がつかない面がある。これからの地域活性化の分野は人口減少社会の観点から物づくりではむずかしい。定住する人に物を買ってもらうことや快適な住居を提供するニュータウン開発などで人を集めるやり方も人口減少化の時代には合わなくなってきた。そうすると観光がこれからの活性化にとってはいいのではないか。従来の観光ではなく幅広い面のサービスがいいのではないか。特にこれからは海外から人を呼ぶにはリピーターをつかむことが大事である。宝塚を考えると、思いつきになるかもしれないが外国人を含めた滞在型の快適な町づくりが向いてのではないか。宝塚に住んでそこを根城として竹田城や京都へ観光に行く。生活としておもしろい町、住民が外国人を大切にする環境の町がいいのではないか。ハードだけではなくソフトな面の観光サービス、外国と接点のある町がいいのではないか。

## 第二部 パネルディスカッション 要約

**司会：**コーディネーター、パネリスト紹介。プログラムプロフィール参照

**コーディネーター：**「まず初めに、基調講演を受けて地域振興として宝塚がどのように発展したらよいか皆様のご意見をお伺いします。」

**川崎：**今ある観光資源をどう使うか。いかに海外にPRできるか、今ある資源をどう使うか、いかに海外の方に興味を持ってもらうかが大事。懸賞小論文にも書いたが、宝塚歌劇の公演内容を日本文化の題材にして英語で行う。

**デイビッド：**宝塚のビジョンはどんな町にしたいのか。明るいビジョンが必要。宝塚歌劇は世界ではどのくらいの人知っているか。世界に向けて公演に行っているのでしょうか。どんな結果でしょうか。宝塚の歌劇以外のエンターテインメントも考える必要があるかもしれない。

**金：**日本人なら誰でも宝塚は歌劇を知っているが、私の国の友達や親戚そして外国の友達、神戸は知っていても宝塚は誰も知らない。いつも宝塚の場所を説明するとき大阪と神戸の間と言う。宝塚は世界では認知度はゼロと言える。国際化の前に認知度を高めることが重要だ。

**宮脇：**私は宝塚の地域振興は地元の付き合いでいろいろなジャンル（落語、ジャズコンサート、雅楽など）で行っている。いろいろな人とのつきあいがあるが海外からの観光客にも来てもらいたい。宝塚は歌劇、手塚治虫記念館以外にも清荒神とか中山寺など観光資源はいっぱいある。そこを知らない市外の方や外国人に知ってもらいたい。いろいろな地域資源をひとつのNPOで発信するのはむずかしい。

**上田：**資料説明：宝塚市観光企画課、宝塚市立手塚治虫記念より資料提供

宝塚の観光施設の年間入場者数と訪日観光外国人概要（日本、宝塚）スクリーンにてPPTで説明

**コーディネーター：**「資料から見るともっと資源が生かせるのではないかと思います。宝塚の魅力は何でしょうか。そして認知度をどう高めるかは歌劇だけではなく、清荒神や中山寺、植木の町山本なども観光資源として活用する必要があります。そのあたりはいかがですか。」

**デイビッド**：歌劇など英語での発信が必要。始めて来る観光客に英語があればいい。

**金**：宝塚の全体の雰囲気は西洋のイメージが強く日本の香りが感じにくい。日本らしさが足りていないのではないか。歌劇ももうひと工夫して日本人の物語や日本の伝統文化、文楽、能などのコラボもおもしろいのではないか。

**川崎**：地域資源として宝塚の歌劇と手塚治虫記念館は日本人にとって抜群の知名度がある。日本人1億2千万人が観光大使になりえる。ソーシャルネットワークなど使えば宣伝効果になる。宝塚を情報発信する柱は歌劇で、清荒神、中山寺は伝統的文化財ではあるが、京都、奈良にはいっぱいある。相乗効果にはなるがそこは宝塚歌劇をメインにする方がいい。英語で発信することそして行政がそれを後押しする。

**コーディネーター**：「たしかに宝塚は洋風の家も多いし、そこを使うと北畑さんがおっしゃった外国人の滞在者を引っ張ってこられるのではないのでしょうか。そのところはどうか」

**金**：宝塚は自然環境もいいし、交通も便利、住みやすい。歌劇もあり音楽の町という印象も強い。音楽と自然がある癒しの町を世界にアピールして、癒しの町をテーマに発信したらどうか。

**宮脇**：今私はきずな作りと縁結び活動をしているが、兵庫県とタイアップで婚活事業をしているが、宝塚でイベントを開催している。そこに海外発信できるといいし、婚活の前に地域の方々との交流で、「癒しのタベ」の演奏、婚活をしている。その中で滞在外国人との交流ができればいい。今有馬温泉と宝塚温泉がコラボして外国人観光客の誘致を考えている。友人の旅館経営者は台湾などの誘致に頑張っていて、有馬温泉～宝塚（歌劇、清荒神、中山寺）～大阪、京都への案を考えているようです。

**デイビッド**：資料を見て驚いた。清荒神や中山寺の観光客が多いがそれは99%日本人ですね。京都の清水寺などはきれいな店や食堂などたくさんある。清荒神や中山もおいしいもの、伝統的なものがあれば外国人も来るのでは。宝塚にもっと多くの外国人を呼び込むなら京都のような伝統的なものがほしい。

**金**：オーストラリアとニュージーランドの友達が来て宝塚を案内して、どこが一番良かったと聞いたら、宝塚駅前の和食の「がんこ」と答えた。日本庭園がすばらしい（デイビッドさんも同感）と言った。

**コーディネーター**：「日本人から見た目と外国人から見た目には違いがありますね。新しい発見ですね。その日本庭園とか考えたとき。山本とか盆栽などはどうですか。いろいろふくらませていくとアイデアはあるのですが、海外にまず知ってもらおう。これからどう知ってもらったらいいか。行政も巻き込んで海外に発信することも大事になってくるのではないかと思います。今後リーダーとなってNPO法人としてアイデアはありませんか。」

**上田**：情報発信するにはそれを吸い上げる組織体が必要。NPOとか行政とかいろいろ形はあると思うが、個々の意見を集約するところがまだない。観光協会はあるが海外まで取り組みができていないのではないか。そういう組織をつくっていくのがいいと思う。

**コーディネーター**：さきほどの北畑さんのお話の中でリピーターを増やすことができました。何度も行ってみたいと思うことが大事ですが、そのへんで手塚治虫記念館もうまく使えばアピールできると思うのですがどうですか。

**川崎**：クールジャパンでよく見かけるが、キャリーピャムピャムはヨーロッパのデンマークではダウンロード数が一番。ナルトと言う忍者アニメも海外で有名で、外国人から見た忍者を意識した内容です。手塚治虫も同様、どう発信するかが重要で、例えば手塚治虫アニメの作品「新撰組」「陽だまりの樹」日本の歴史的な物語ですが、英語で歌劇の公演をする海外に発信すれば、クールジャパンにも受け入れられるのではないか。

**コーディネーター**：「忍者とか侍とか海外から見た場合は魅力があるのでは？海外から見た場合の日本的なものがありますか？」

**金**：手塚漫画のマニアのために宝塚で祭りやフェスティバルなど年一回したら。観光につながると思う。

**デイビッド**：いろいろ考えましたが観光ではなくて、研究の専門やさきほど北畑さんの紹介の徳島大学の糖尿病についてあったように、もし西谷に研究施設をつくるとしたらいいのでは。20年まえ30年前から少しずつ有機栽培農業が増えてきました。西谷に兵庫の農業大学や有機栽培の環境センターなどつくれば、世界にも注目されるのではないかな。

**コーディネーター**：「西谷にはそういう自然があり、昔の家が残っているので農業でアピールできるということですね。そこで外国人観光客の英語標識やパンフレットの問題ですが、海外のパンフレットも必要ですし行政とのタイアップが必要ですね。滞在も観光も周りに標記が必要です。Wi-Fiの設置も必要です。阪急電車は駅の数字標記も取り組んで来ていますが何かご意見はありませんか？」

**宮脇**：阪急梅田駅では英語が通じるキップ売り場の駅員さんがいる。片言英語であるが、高野山の南海電鉄は英語やフランス語を話す駅員さんがいる。また高野山の住職で英語・フランス語がペラペラのお坊さんがいる。法要のあと英語で説明していた。世界遺産という理由もありますが。宝塚で残念なのは以前ソリオに観光案内所があったのがなくなっている。今外国人に対する観光案内所を設置してほしい。

**コーディネーター**：「宝塚においてもそういう外国語の通訳できる人はいると思いますので、観光案内所には英語で通訳できる人を置くなどシステムとしてできないでしょうか。いかがですか？」

**金**：日本はどこ外国に比べても外国人が観光するには設備が非常に整っていると思うのです。それよりもどうしたら外国人観光客が来てもらえるかが重要で、まず人が訪れることをまず考えることが大事だと思います。

**川崎**：金さんがいわれた通り、まずは来てもらうことが大事。地域の資源を海外に発信するには、やはり100年の伝統を持つ歌劇を英語で公演することがいい。ただ企業の経営の問題があるので誰かがその橋渡しをして、行政が後押しして市民がつなげることが必要。まず来たい、見たいと思わせることですね。

**デイビッド**：もし英語で歌劇をやったらすぐ見たいですね。でも外国人観光客からは日本の伝統を見たいのが一番大切。また夜の観光として英語歌劇があればいい。

**金**：私は始めて日本に来たとき日本の伝統芸能の文楽や歌舞伎を見たのですが全然わからなかった。

その中で伝統という文化に触れたとき日本の良さを感じた。歌劇は今年始めて見たが日本の衣装や伝統的な題材が印象的だった。日本らしさがないと魅了が少し足りないと思う。

**コーディネーター**：「外国人の方が日本へ行く時、宝塚に行きたいと思えるよう、宝塚の市民の方から日本人に発信して、そこから海外に向けて発信できたら広がっていきますね。宝塚で何かするという興味を持ってもらうきっかけができないかと思うのですが。」

**宮脇**：兵庫県の交響楽団のメンバーがいるのですが、宝塚に滞在してオーケストラ活動しているようです。そのように情報発信を अच्छこっちでしているのもっと一箇所を集めて発信するともいいと思う。また宝塚の伝統的な祭りがある。西谷と山本なのですが、山本には400年続く5年に一度の「とんとこ祭り」がある。また西谷には300年以上続く「けとろん祭り」というものがある。去年外国人も来ているようで関学の留学生も30、40人来ていた。そのような地域発信を一箇所にして海外へ発信してほしい。

**コーディネーター：**「時間が迫っております。それではここで参加者からの意見やこういうところを聞いてみたいと思うことがあればお聞きしたいと思います。」

**参加者：**宝塚在住20年飲食店経営。こういう活動するには資金が必要で、たとえば大手の東洋ベアリングも撤退してかなりの減収になるなか、企業誘致も必要ではないか。そして海外に目を向けて行くには、金さんがおっしゃるように、外国人が来るにはもっともっと日本らしさを大事にしていく必要がある。そこで西谷地域のことが出ましたが、西谷夢市場、西谷自然の家、西谷森公園の来場者は150%伸びていて宝塚の三分の二の面積を占めている。来年にはスマートインターもできる。もっともっと西谷地域の日本らしさをつきつめていく必要がある。お金を落とすということについて企業誘致ですが、実際人が宝塚に住んでも、住民票が市外にあれば住民税や所得税は宝塚には落ちない。税収の増やすアイデアなど何か考えはないものか。

**宮脇：**一番残念なのはたとえば個人の方が宝塚に開業しました。しかしある程度の規模になると大阪や神戸へ本社を移転することが多い。これはインフラ整備をはじめ市の施策が悪いと思う。なぜなら伊丹市や神戸市などは商工会議所や産業振興センターなどが企業誘致など熱心である。

**参加者：**宝塚市に30年在住。宝塚ガーデンフィールズの跡地利用で市側の依頼で提案をしているが、なかなか当初の構想からは変わってきている。大温室のメタセコイヤ存続もしつこく言ってきたが3月いっぱい行政に任せることになった。いくら今までの観光都市であっても施設側もいろいろな事はいつでも企業であり、行政も努力している中でも、このような話をもっていつでも絵に書いた餅に終わる。跡地をどのようにしたら外国人が来てくれるのか、新しい土地利用などの点から利用を考えてもらい。外国人が来てくれるような提案をNPOにお願いしたい。

**参加者：**年配の主婦としてですが、先日NHKで飛騨高山の観光の紹介をしていた。いかにして観光客を招くか市が長年力を入れていて、最近韓国から多くの観光客が訪れているらしい。それに比べて宝塚は観光資源に恵まれているのではないですか。

**コーディネーター：**「今回いろいろな観光資源があることに気付かされました。またどのように発信していくか、何を売りにしていくかパネリストの皆さんに意見を出していただきました。これからの宝塚の地域振興に役立っていけるような形に持って行ってほしいです。またそのリーダーとして宮脇さんや上田さんには頑張ってもらい、もっともっと活性化してもらおうよう期待します。」

**司会：**前後しましたが後援の紹介と中川市長のお祝いメッセージを紹介します。シンポジウムの内容を今後行政や後援団体にフィードバックして、ホームページなどで市民にも公開していきたい。今回のシンポジウムはその第一歩であります。ありがとうございました。